

スイートコーンのカルテック施肥例

(10アール当り)

地力作り	<p>右記を同時に散布、 土壌に鋤き込む。 (播種までに、なるべく 長く、20日以上おく)</p> <p>なるべく深く豊かな 土壌で、深い根を張ら せること</p>	<p>ラクトバチルス 600グラム 堆厩肥 1トン以上 硫安 60kg</p> <p>※多肥とする場合も 硫安80kg (N:16kg) 迄。 もし複合肥料を施す場合も P・K成分をN成分より多くはしない。</p> <p>※土壌EC: 0.2以下でないと、根が伸びにくくなりますが、伸びた根は 堆厩肥や地力の肥料分をよく吸収しますから、チッソ過多にしないように。</p> <p>※もし土壌が酸性すぎる場合は、畑のカルシウムも混用します。(好適pH: 5.5~7.5)</p>
播種前	整地・ウネ立て時に散布	畑のカルシウム 60kg
播種時	播種後、灌水して鎮圧	<p>濃縮酵素液 1リットル (倍率・適宜): 発芽発根促進</p> <p>※発芽後・半月の間に、側根や節の支柱根が充分太く伸びて、強く吸水・吸肥を行ない、稈を太く旺盛に生長させることが重要です。</p>
(播種後30日 ~40日頃) 膝高期	<p>追肥して土寄せ</p> <p>※根の作用を強くして、 土の中にある肥料分 を吸収させるのが、 理想的です。</p>	<p>状態によって調節し、この後1ヶ月ほど、雄・雌の穂が分化する間の体質を決めます。通常は、濃縮酵素液で根を強化。</p> <p>もし、どうしても土壌中に不足している場合には、追肥しますが、チッソだけでなく、カルシウムを同時に施すことが実成りのために大事です。</p> <p>硫安 20kg 畑のカルシウム 20kg</p>
(播種後60日 ~70日頃) 雌穂分化期 雄穂抽出期	<p>雌穂の分化、充実のために カルシウムの葉面散布を しっかりと行います。</p> <p>(農薬混用可、 ただし銅剤は不可)</p>	<p>カルテックCa液状 500倍 葉面散布</p> <p>①7日間隔で2回繰返し。もしチッソ過多・過繁茂の場合3~400倍と濃いめ、間隔も短く繰返し。 中段の同じ高さに揃って確実に雌穂を着けます。</p> <p>②更に雄穂抽出始めにも散布します。茎頂の雄穂が出る始めに散布し、雌穂の抽出を早め、雌花の開花を穂先まで充実させて、不稔粒をなくします。</p>
成熟期	<p>コーン粒の仕上げの カルシウム散布</p>	<p>カルテックCa液状 500倍 葉面散布</p> <p>受精後15~20日の乳熟期、それから7日間の糊熟期に、カルシウムの葉面散布を行います(2回) これで粒の充実をよくし、糖度が上がり、粒にシワがよらず、鮮度保持力が強くなります。</p>